

不思議ふしぎ!?

京都に隠れた意外な秘密を紹介します

江戸時代の樹木葬 たてかわ桜の願い

歴史や文化、全てが源流へとたどり着く古都。京都を知ることには日本を理解すること。

京都好きを大好きに

京都
検定

京都・観光文化検定試験
京都商工会議所



真如堂の本堂を背景に咲く「たてかわ桜」

桜の季節。桜といえば洛東の名刹・真如堂に「たてかわ桜」という樹皮が縦に裂ける桜があるのをご存じですか？ 鴨川の桜並木などよく見かける桜の樹皮は横に裂けています。ところがこの桜は樹皮（皮目）が松のように縦目なのです。しかしこれはこの桜がエドヒガン系の桜だからで、観光地によくある横目のソメイヨシノと違うためですから、このこと自体はおかしなことはありません。私が想いを寄せるのはむしろこの桜の歴史です。



ソメイヨシノの皮目（鴨川）



たてかわ桜の皮目

かつて明智光秀の重臣、斎藤利三は、その非を主君に進言しながら容れられず、本意ならずも本能寺を攻め、その後秀吉に追われて堅田で力尽きました。遺体は京都で晒され、その姿を食い入るように見つめていた



斎藤利三(左)と海北友松(右)の墓



奥が二代目、手前の細木が三代目。竹は支え。

一人の少女がいました。この少女こそ斎藤福、のちに三代將軍家光の乳母となる春日局その人です。利三の遺体は友の無残を見かねた絵師の海北友松が奪い取って真如堂に埋葬しました。この桜は父の菩提のために春日局が、父が眠る真如堂に植樹したものののです。桜のすぐ裏には利三と海北友松の墓が並んでいます。

この桜、私には四百年前に

春日局が行なった樹木葬に思えます。横に割く切腹のイメージを嫌い、あえて縦割きの桜を選んだ、というのは考えすぎでしょうか。局が植えた桜は伊勢湾台風で倒れ今は二代目、さらに現在隣に三代目の若桜が育っています。この桜は若木の時には横割れで、育つと縦割れとなります。よく見くらべてみて下さい。

(京都・清遊の会 堤勇二)